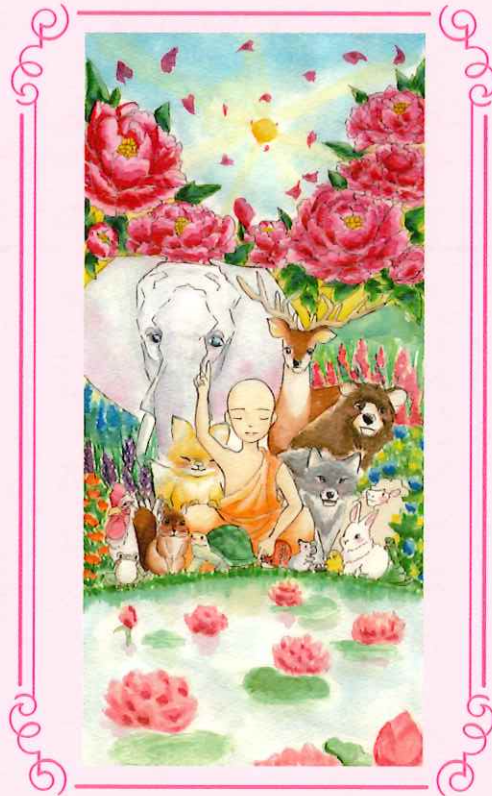


2024年度

大谷中学校
大谷高等学校

釈尊降誕 花まつり



日 時 2024 (令和6) 年5月2日 (木) 高校1.2限 中学3.4限
会 場 大谷学園講堂

「お花まつり」から学ぶ命の大切さ 大谷中学校・高等学校 校長 萩原 英治

「お花まつり」は世界の各地域で古くからおこなわれている行事です。日本では西暦606年の推古天皇の時代に初めて行われました。お釈迦様の誕生を祝い、お釈迦様の智慧と慈悲の教えを信じて、日々精進努力していくことを誓う日です。

お釈迦様は今から2500年ほど前に、現在のネパール地方で、釈迦族の王子としてお生まれになりました。お釈迦様は生まれてすぐに、四方に七歩ずつ歩み、右手で天を、左手で地を指して「天上天下、唯我独尊」と言われたと伝えられています。このお言葉は「人は誰でもこの世に一人だけであって、他の誰とも決して代わることができないただ一人の存在である。生きとし生けるものは、全て尊い命を持ち、この世に生まれた者は皆平等である。」と解釈されています。

私たちは忙しい日々の中で、授けられた命についてはほとんど気にかけることなく、それぞれが思い思いの暮らしをしています。このような状況の中で、私たちは幸せにも、お釈迦様の誕生を祝う「お花まつり」に参加する機会に恵まれ、お釈迦様の大きな慈悲に感謝するとともに、一旦立ち止まって、心を清らかにして、「自分の命について」「周りの人々の命について」「命とは何かについて」改めて考えてみる機会を得ることができています。

現代の世の中は、残念なことに利己的な個人主義がはびこり、他者を尊ぶ気持ち、優しさ、思いやりといった、人間が本来誰でも持ち合わせている崇高な心が衰退していっているように思えてなりません。

私たちが常に心に留めておかねばならないことは、授かった自らの命に感謝し、一人ひとりが自分の命を大切にするとともに、他の人々の命も尊び、お互いに慈悲の心をもって、支え合いながら、心を豊かにして人生を歩んでいくことです。

皆さんが、日常生活の中で、お互いに尊重し合い、報恩感謝の念を礎に、「やさしく かしこく うつくしく」成長して、社会の一隅を照らす女性になってくれることを期待しています。

式典次第

1. 式典 献花……………宗教委員
灌仏……………宗教委員
三婦依……………全員で復唱（聖典P.4）
讃歌……………「清らに飾れ」（全員で斉唱）（聖典P.71）
2. 学校長の挨拶 萩原英治 校長
3. 講話 遠慶寺住職 大橋恵真 先生
4. 讃歌 「花祭りの歌」（全員で斉唱）（聖典P.13）

式典終了後、感想文を書き担任に提出してください。式典当日聖典・筆記用具・花まつりパンフ・講話レジメを持参ください。

仏典童話：花いちりん

サーバツティのバセーナデイ王のお城に花をおさめてい
る人がいました。
ある朝のこと、花屋はいつものようにあふれるほどの花の
中から、王さまにふさわしい花を念入（い）りにえらんで
いました。

とちゅうで花屋は思わず手をとめました。

「やあ、これはなんとみごとな花だ。ながい、ことこの商売
をやつてきて、こんな美しい花は見たことがない。王さま
には悪いが、このいちりん（いちりん）でひともうけさせてもらおう」
花屋はお城へ花を届けるのもそこそこに、さつそく町へ
向かいました。

大輪のその花は、いちりん（いちりん）でかごいっぱいになりました。
色の鮮（あざや）かさと香りのふくよかさが、ゆきかう
人の足をとめました。

「きれいな花だ。さぞかし高く売れるだろう。どんな人
が買うのかな」
遠まきにして花屋についていく人もありました。

まもなくにぎやかな大通りにさしかかると、むこうか
ら商人らしい太った男が花に目をとめてかけてよつてきま
した。

「その花、わしに売ってくれんか。いくらでもかまわんぞ」
「花屋さん、それをわたしにゆづつてくださらないか。高
くてもいいから」

太った商人が、いとおわらないうちに、ほかのひとりが声を
かけました。

スタツタというお金持ちでした。

「はい、はい。どちらでも高い値段（ねだん）をつけたお方
にお売りたいですよ」

二人はつぎつぎに値段（ねだん）をあげてせりあいまし
た。太った商人は何とか自分のものにしてしようと値段とい
つしよに声までつりあげました。スタツタは相手があき
らめるまでいくらでも続けまますよというふう（ふう）にニコニコ
していました。

花屋はふと考えました。

「たったいちりんの花に、こんなとほうもないお金を払
おうとは、二人はいつたいどういうつもりなんだろう」
「だんなさまがた、この花をそんなに高く買って、いつたい
何になさるのですか」

太った商人が汗をふきふきぶつきらぼうにいいました。

「決まっているじやないか。商売の神さまにお供（そな）え
して、もつともうけさせてもらおうのさ」

「わたしはおシヤカさまにさしあげるのです」

スタツタはあいかわらずニコニコと答えました。

「ああ、おシヤカさままでだれですか。商売の神さまよ
り、もつともうけさせてくれるのですか」

花屋がたずねると、スタツタは少し間（ま）を置いて答え
ました。

「そうですね。お金もうけより、もつと大きな心の幸せ
を教えてくださいな」

スタツタの澄（す）んだ瞳（ひとみ）やおだやかな話し方
に、花屋はいつのまにか心をひかれていました。

「だんなさまがた、悪いけれど、この花、売るとやめま
す。かんべんしてください」

花屋はすまなそうに、けれどきつぱりといいました。太っ
た商人はムツとした顔つきになりましたが、これ以上む
だな時間を使つてはいられないといいたげに足ばやにた
ちさりました。

「わたしをおシヤカさまのところへ連れていつてくれ
ませんか」

「いいですよ」

スタツタは笑顔をいつそうほころばせて先にたつて歩き
ました。花屋と物見（ものみ）だかい町の人々が後に続
きました。

こわきにかかえていたかごを、花屋は両手で胸の高さに
持ちなおして、いちりんのその花はあいかわら
ずしずかに美しい香りをはなつていました。

「撰集百縁経（せんじゅうひやくえんぎょう）」
『仏典童話』（東本願寺出版部発行）より転載

表紙の絵は 宮井 杏香（高3・E組）さんの作品です。毎年「花まつり」の絵を募集しています。
優秀作品は大阪府仏教関係学校連合会の花まつりで表彰されます。生徒の皆さんはふるって応募下さい。
作品テーマ おしゃかさまの誕生（B5の紙に書く）
メ切・提出先 二学期終了までに中高宗教主任まで 来年度は、しおり用の絵を募集します。

13時まで事務所前にも「誕生仏」をお祭りしてあります。休み時間などを利用して灌仏してください。